

2022年2月16日

ボルグワーナー

## ボルグワーナー、水素噴射システムにより オフロード車のゼロカーボン・モビリティをサポート

- インジェクター、レール、電子制御ユニット、システムインテグレーションを含む噴射システム  
トータルの生産事業を初受注
- 水素パワートレーンへの参入は、クリーンなソリューションの幅広いポートフォリオ構築への  
さらなるステップ

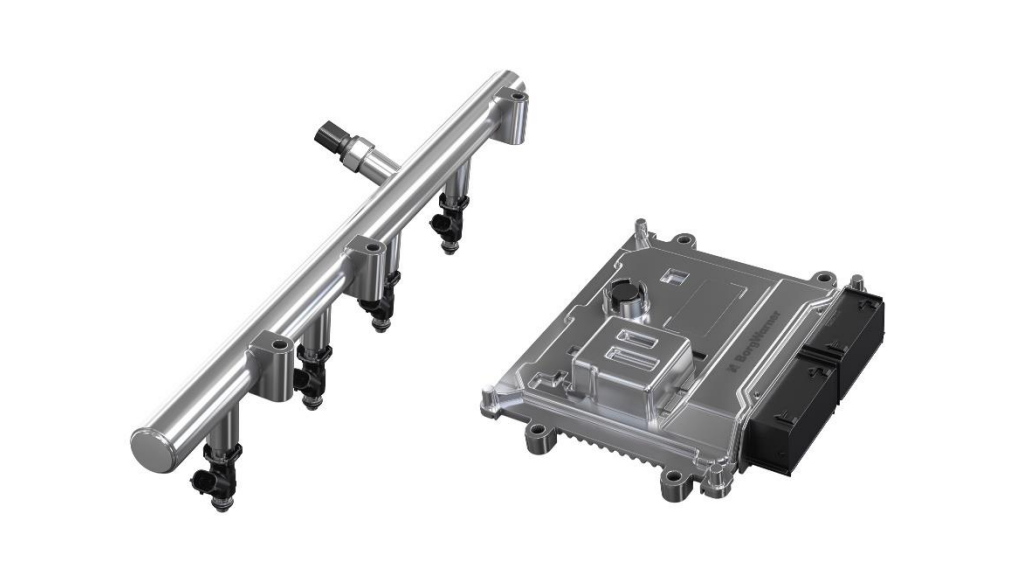
革新的で持続可能なモビリティソリューションを自動車業界に提供するボルグワーナー(本社:アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者:フレデリック・リサルド/Frédéric B.Lissalde)は、水素燃焼への取り組みを強化するなか、欧州の建設機械メーカーからオフロード用水素噴射システムの生産事業を初めて受注しました。この技術は、ゼロカーボン・モビリティを推進し、さらには最適化されたエネルギー効率や積載量および短い燃料充填時間によりトータルの保有コストを低減できることに加え、短期間のうちに市販化が可能です。

ボルグワーナーは、水素技術のソリューションプロバイダーとして、オンロード用、オフロード用を問わず、乗用車から小型および大型商用車まで、あらゆる車両セグメントの OEM と協力します。コンポーネント単体の納入や、コントローラ、ソフトウェア、キャリブレーションを含む燃料噴射システム全体を統合した完成品の納入にも対応できます。

水素技術は、従来の内燃機関のわずかな仕様変更で、短期間のうちに市場に投入できるパワートレーンソリューションです。水素はガソリンやディーゼルよりも密度が大幅に低いため、エンジンの噴射システムには、燃料供給やパッケージングの要件を満たすための新しいソリューションが必要です。ボルグ

ワーナーは、噴射システム分野における長年の経験を基に、ポート燃料噴射や直噴ソリューションなど、低圧、中圧、高圧環境で使用される水素コンポーネントの開発に積極的に取り組んでいます。

ボルグワーナー燃料噴射システム担当副社長兼事業本部長のダビデ・ジレリ(Davide Girelli)は、「今回の受注は、長年の顧客との関係をさらに前進させるものです。燃料噴射装置、レール、電子制御ユニット、システムインテグレーションを含むトータルな水素噴射システムを提供できることを嬉しく思います。ボルグワーナーの電動モビリティ分野での提供製品は、ここ数年で非常に増えています。水素燃料の適用技術に投資することは、クリーンで効率的なパワートレインの幅広い技術ポートフォリオを構築するためのさらなる一歩となります。」と述べています。



欧州の建設機械メーカーから生産事業を初めて受注した  
ボルグワーナーのオフロード用水素噴射システム

### ボルグワーナーについて

ボルグワーナー (NYSE: BWA) は、自動車市場に革新的で持続可能なモビリティソリューションを提供する世界有数の企業です。OEM 向け純正品で培ったノウハウを活かし、グローバルアフターマーケット市場にもトップクラスの製品やサービスソリューションを提供しています。世界 22 カ国 93 カ所に生産・開発拠点をもち、全世界でおよそ 49,000 人の従業員を雇用しています。詳細については、[borgwarner.com](http://borgwarner.com) をご覧ください。

本プレスリリース(以下、本「リリース」)に記載された内容には、経営陣の現在の見通し、期待事項、試算、推定に基づく、1995 年米国私募証券訴訟改革法で想定された将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「影響」、「試算する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「目標」、「指針」、「取り組み」、「意図する」、「場合がある」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「予見する」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」、「かもしれない」などの文言、その変化形および同様の表現は、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。さらに、歴史的事実に関する記述を除く、本リリースに含まれる、または言及する形で盛り込まれた当社の財務状況、事業戦略、当該戦略を実施するための手段などに関して、将来起きる、または起きる場合があると当社が期待する、または見込むあらゆる記述は、将来予測に関する記述です。その例として、業務の変更、競争上の強み、目標、当社事業および業務の拡大と成長、計画、将来の成功に関する言及などがあります。当社の直近の Form 10-K 年

次報告書(以下、「Form 10-K」)の第7項「重要な会計方針(Critical Accounting Policies)」で記述されたものをはじめとする会計上の試算は、本質的に将来予測です。すべての将来予測に関する記述は、歴史的な動向、現在の状況、期待される将来の進展、当社がそれらの状況下で適切と考えるその他の要因に関する当社の経験と知見を踏まえた当社による仮定および分析に基づいています。将来予測に関する記述は業績を保証するものではなく、当社の実際の業績は、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄と著しく異なる場合があります。

これらの将来予測に関する記述は、本リリースの発行日における事柄を述べたものであり、過度に依存すべきではありません。将来予測に関する記述にはリスクおよび不確実性が伴いますが、それらの多くは予見困難かつ一般的に不可抗力によるものであり、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄とは著しく異なる実際の結果をもたらす可能性があります。そうしたリスクおよび不確実性の例として、当社または当社顧客に影響を及ぼす供給停止(受託製造会社(OEM)顧客および当社を含むそのサプライヤーに影響を与えている現在の半導体チップ不足等)、商品の入手可能性および価格、OEM顧客を含む既存および新規競合会社との競合、急速に変化するテクノロジー(主に電気自動車関連)およびそれに対する当社の革新能力に関連する困難、新型コロナウイルスに関連する事態が及ぼす影響の範囲および期間に関する不確実性(さらなる製造停止等)、電気自動車の需要予測および当社の2030年までの電気自動車売上成長率の予測の困難、ターゲットを特定して許容可能な条件で買収を完了させる能力、近頃のAKASOL社の買収および2020年のデルファイ・テクノロジーズの買収を含む買収から期待される利益の適時な実現の不実施、売却に適切な燃焼系ポートフォリオ事業を特定し、計画された売却を受け入れ可能な条件で完了させる能力、取得した事業の迅速かつ効果的な統合の不実施、取得した事業に関連する未確認または推測不可能な債務の可能性、自動車およびトラック製造(いずれも景気に大きく左右され、停止の可能性がある)への当社の依存性、大手OEM顧客への当社の依存性、金利の変動および外貨の為替レートの変動、情報システムへの当社の依存性、世界経済環境の不確実性、さまざまな損害賠償に関する訴訟など既存または将来の法的手続きの結果、当社が事業を展開している国における関税などの法規制の将来的な変更、直近のForm 10-Kおよび/またはForm 10-Qの第1A項「リスク要因(Risk Factors)」など証券取引委員会に提出する報告書に記載したその他のリスク(パンデミック、隔離等)が挙げられます。当社は、期待事項の変更または記述の根拠となる出来事、条件、状況、仮定の変更を反映するために、本発表文に含まれる将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新もしくは改訂を公表する義務を負いません。

#### <報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 中井、浜辺

TEL:03-6260-4854 EMAIL: borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp